

## 第1回公共施設の整備に関する検討委員会会議録

1. 日 時 平成26年6月17日（火）午後2時30分～午後4時30分
2. 場 所 市役所第3庁舎会議室
3. 出席者 （委員）花井委員長、原副委員長、小松委員、船橋委員、出口委員、  
諏訪村委員、杉山委員、藤間委員、須藤委員、中田委員、田中委員、  
内藤委員 以上12名  
（市側）市長、経営企画部次長、総務課長、施設企画室長

### 4. 会議内容

#### (1) 開会

#### (2) 委嘱状交付

《市長より順次委嘱状が交付された》

#### (3) 市長挨拶

（市長）

皆さん、こんにちは。今日は大変お忙しい中、第一回にはなりますが公共施設整備に関する検討委員会にお集まりいただきましてありがとうございます。ただ今、委員の皆様へ委嘱状を交付させていただきました。これから活発なご議論をお願い申し上げますので、どうぞよろしくお願いたします。今年度に入りまして4月10日になりますが、この熱海市庁舎が新しく生まれ変わりました。築60年の市庁舎になりますが、ようやくこの4月10日に完成をみて、今稼働しているところです。この市庁舎につきましては限られた財源、また限られた期間、いろいろな制約の中である意味、市がかなりの部分を主導して行わざるを得なかったといった事情がございます。一方で今回皆さまに検討をお願いいたしますプロジェクト、これについては、私は市民の市民による市民のための施設であると思っております。今仮称で「熱海フォーラム」という名前がついておりますが、私は個人的にはこの施設の名前もぜひ市民の皆さまに決めていただきたいと、そんなふうに思っております。またこれから具体的な内容をいろいろ議論して頂くわけではありますが、決して図書館や市民ホール、そういったハードウェアを建設するというふうには思っていないでくださいと思っています。というのはあくまで市民の生活を豊かにする施設、あるいは世代を超えた交流の場、これにふさわしい場の中に、図書館があったり市民ホールがあったりとそんなふうにとらえていただければと思います。

市庁舎のある土地は大変歴史がございます。徳川家光公の時代まで遡るわけですが、この度、この市役所の敷地に隣接する3,000㎡の土地を取得することになったわけですが、私はこれは千載一遇のチャンスだと思っています。私はこの熱海市の中心市街地、非常に土地が限られ坂道も多く、なかなか市民が集うような場所がなかったわけですが、先ほど申し上げましたが、世代を超えて市民が集える場所を何とかこの中心部に作りたいなという思いは常々あったわけですが、そういったことが実現する環境ができたことは、大変ありがたいことだと思っております。この度委員の皆さまにおかれましては、この事業のプロジェクトの構想段階からいろんなご意見を伺うわけでございますが、そういった趣旨をご理解いただきまして活発な議論、繰り返しになりますが、あくまでこの施設、市民

の市民による市民のための施設、あるいは市民の集う場であることを念頭に置かれましてご議論いただくことお願い申し上げます。

最後になりましたが、今日からこの委員会がスタートいたしますが、合計だいたい6回ほどの委員会でありますけれども、議論が実りあることを期待いたしまして冒頭ではありますがご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

#### (4) 委員自己紹介

《順次自己紹介》

#### (5) 議題

##### ① 正副委員長選出

《委員長に花井委員、副委員長に原委員が選出された》

《委員長・副委員長の挨拶》

(花井委員長)

改めまして、花井と申します。宜しくお願いします。いくつかこういう会議に僕は参加させてもらったり、末席のほうにいたりするわけですが、本当にこの会議は素晴らしいなと思うことがあります。やっぱり女性が大変多い。これは世の中と言え世の中ですけれども、そうはいつてもというところが多くて、これだけ女性の方がいる。そして、先輩方と若い委員の方々がこれだけ入り混じるといのはなかなか僕が経験したなかではあまりないです。そして行政の方が、委員としてかっちりと入っていただけるというのは、大変素晴らしいことだと思ひます。だいたい行政の方は後ろで待ってらっしゃることが多いですが、きちんと入ってきちんと本質を含めて全てやろうとしていらっしゃるというのは素晴らしいなと思ひました。そのなかで議長やらせてもらいますけれども、あまり固くならずやるのが一番いいのかなと。未来を見据えて固くならず皆さんと、僕の言葉で言いますと「妄想」と言うのですが、妄想しながら活発な意見で新しい未来を一緒に作り上げたいなと思ひますので宜しくお願いいたします。

(原副委員長)

座ったままで申し訳ございません。一言挨拶させていただきます。副委員長を仰せつかりました原と申します。宜しくお願いします。私は委員長を補佐し微力ながら、皆さま方のご意見を何とか無事にまとめて、市長の方に提言していきたいなと思ひます。その一翼を担えること嬉しく思ひます。最後まで一つ宜しくお願いします。

《市長、公務のため退席》

##### ② (仮称) 熱海フォーラム整備事業について

《最初、事務局から熱海フォーラム整備事業の説明》

(委員長)

検討を進めるにあたって、皆さんと初めてですので、皆さんの意気込みと申しますか、多分この委員を任命されてからいろいろ考えもあろうかと思ひます。そしてまた今の説明を聞いて一言ずつ構いませんので、皆さんに今一度お考えを発表して頂ければと思ひます。委員から順番にお願いします。

(委員)

熱海商工会議所の会員というのは、現在1,050の事業所がございます。この会員は、観光協会や、熱海温泉旅館協同組合、その組合員と大体重複しております。1,050

という事業所で、商工会議所を運営しておりまして、そういうなかで、私が選ばれたのは経済界を代表して選んでいただいたのかなど。そうした認識にたっご意見出させて頂ければと思っております。今回の仮称基本構想骨子の中にございます、市民参画の部分で、多様な活動を念頭に置いた汎用性の高い施設整備ということがうたわれております。私はそういう観点から、広範な活動に対応できる、いわゆるここに書かれている図書館もそうですし、市民ホール的なものもそうですし、そして市民が集う、あるいは経済活動に寄与するような汎用性の高い施設になって頂ければ、非常によろしいのではないかと考えています。ただあれもこれもいろいろ欲しいというふうには、到底いかないと思しますので、その辺、見定めながら、ご意見もさせていただければ私の役割ができるかと思っております。市民や観光客、そして経済活動をしている皆さんがよかったと思われる施設になるようにしていきたいと思っております。

(委員)

私の所属しております書道連盟は、文化団体連合会に属しておりまして、文化団体連合会というのは14団体、たとえば書道、お花、茶道、民謡、音楽など、そういう各団体の組織に14団体、それで市文連と名付けております。そして各団体は各自の活動のほかに、市内で発表会もしくは展示会を行っております。近年は本当に展示場所がなくて、やむなく起雲閣などを使っておりますが、書道などでは他からきた先生がみんな驚くくらいの場所ですね。そして子どもたちの県の静岡県書道協会では、マリンホールで、現在展示するところがないもので、書初めなどの表彰式及び展示をしていますが、もともとマリンホールは展示会場ではないので、わざわざ二日間のために大工さんをお願いして展示しているような状態です。起雲閣も元々はそういう展示場所とか、発表もするために作られたわけではないので、この14団体は場所の取り合いと、またその各団体によって少人数のところもありまして金額があまりかかっては困るところもございます。また場所的にお客様は入って、街なかですので、観光客も参りますので、動員数は多いです。ただ展示場所が、たいしたパネルではないので、書道などは大きい作品は一切飾れなくなってしまいました。美術にしてもお芝居にしても。また反対に展示の部はそういうことですが、発表の部はマリンホールを使ってほしいとか起雲閣の音楽室でというのですが、本当にやる場所ではないところでやるということで、音楽連盟さんなんかは本当に苦情しか出ないですね。ですから是非とも今回小規模でも立派な、胸を張れるような。観客動員は熱海市民だけではなく。熱海の人は今西側とか沼津、三島、小田原に何かいいコンサートとかお芝居とか来ますとみんな見に行きます。熱海では観光会館ではあまりそういったことができなかつたのですが、小さくてもいい場所であればお客様も呼べると思います。市内のそういうかたちの活動だけじゃなくても。ですから是非とても素晴らしい、みんなに胸を張れる、市民の文化の向上とそれから次世代の人たちのためにもしっかりした今回の会場づくりに私も提言や助言をしたいと思っております。宜しく願いいたします。

(委員)

私は熱海建設業協会としての名前に参加させていただいていますが、建設手法に関するお話というのは今後も出てくると思いますが、このような立場でお話しするのではなくて、私は昨年度までは熱海市のPTA協議会の会長を務めていたんですが、その中でも新しいフォーラムについてのお話はかなり各学校のPTAの会長さんからも出ました。

もう一点は先ほど委員から経済団体のお話がありましたけれど、私も熱海商工会議所の青年部の会長も務めていまして、その活動に関しても非常に関連性が出てくるのかなということを感じています。商工会議所の青年部もPTAも熱海市の代表としていろいろなところ、他地区の方々と交流することが非常に多くて、他地区のそういったフォーラムに行くことも大変経験としてありました。この中で熱海市という街が非常に独特な街で、私たちが起雲閣で会議をやりたいのですが、いっぱい全然予約ができないということで、

例えばホテルの会議室ですとかそういったところを多用せざるを得ない中で、PTAも商工会議所もやはりそういうところで活動を限定されてしまう部分があります。そういうところが熱海の特徴と言えば特徴なのかもしれませんが、前半としては他の地区のフォーラムがどのような特徴を持っていて、どのような活用をされているのか個人的には勉強したいなというそんな気持ちをもっています。

(委員)

読み聞かせの図書館でボランティアをしています。先ほど市長がこのプロジェクトは市民による市民のための施設という事をおっしゃっていましたが、まさに図書館はそれにぴったりの施設だと思います。図書館というのは赤ん坊から年配の方まで、それに仕事のある方ない方、障がいのある方、病気の方もどの方でも全部図書館を利用することができる施設です。つまり熱海市全体に一番関われる施設だと思っていますので、そこは公共施設の中で、熱海市が一番力を入れていいところだと思っています。今度、私熱海に住みまして35年になりますが図書館が新しく建つ、このわくわくするような新しいことに参加できて嬉しいと思っていますが、どんな図書館にしたいかということはさきほど委員長が妄想とおっしゃっていましたが、確かに妄想でも夢でもたくさん語って行って、それから先ほどの市川次長の話の聞いていると、とってもしろんなこと言いたくなくなっちゃうくらいのがっかりするような話ではありますが、でもまず最初に委員長がおっしゃっていた妄想から入っていききたいというのは私もそう思っています。私が関係している読み聞かせの会のメンバーとか学校司書の方、そして小学校のボランティアをしている皆さん、図書館に私どもの会のほかにも、活動している方がいますので、皆さんにどんな図書館を希望しているのか聞いていききたいなと思っていますが、先日図書館に行ったときにある男性に「新しい図書館が出来るみたいですが、どんな図書館にしたいのか希望・要望がありますか」と聞きましたら「そんな絵空事」と言いました。熱海の図書館に対する希望が何もない。というのは考えたことが無いのだと思います。普通の図書館には図書館協議会、図書館友の会、図書館を考える会など図書館を応援したり関係したりする会がいくつもあるのが普通ですが、熱海には一つもありませんので、常々市民の方たちがどんな図書館にしたいかを考えるチャンスが何もなかったのだと思います。ですので、この場をそういう意味でも、いろいろな方に図書館を一から、こんな図書館にしたいというところから。例えばですね、子どもに読み聞かせする部屋がほしいからというところから、ドアがほしいとか、もしくは子どものトイレが近いところに欲しいとかそんな小さなことからでいいので、みんな意見に合わせてそういう市民の声が反映されて行政とかマスコミも皆さんで知恵を出し合って、みんなの図書館になってこそ、先ほど市長がおっしゃった市民の市民による施設が出来ると思うのでぜひ皆さんの知恵を集めてよりよい図書館にしていきたいと強く思っています。ぜひよろしく願います。

(委員)

先ほどからお話の中で世代を超えた場であるとか、さまざまに場という言葉が多用されていたというふうに感じました。その言葉を受けてですね、よみがえってきたのが、経営学で著名な野中郁次郎さんという方が知的生産社会という本の中で、暗黙知を形式知にするには場が必要であるというようなことを書いていて、それはどういうことかという、みなさんそれぞれにこうあるべきだとか、なんとなくこうなんじゃないかと思っている思いというのが暗黙知と例えられています。それを一つの場に集まって、語り明かすことで、ひとつの形式的な知としてみんなの内に秘めたものが表に出てきて、新しいものに変えるのではないかというそういう話なのですが、まさに熱海市の産業構造というところを見ても、やはり観光業に従事する方が8割近くいるという状況の中で、これは本当に一つのチャンスだと思います。その地の人間と、観光でこうやって出入りしてくれた人、そういう人たちが一つの場所でリンクして何か新しい発想が生まれていく、そういう期待感を込め

て、やはり市のランドマークになるような文化的な土壌を育んでくれるような、そのような施設というものを実現して行ってほしいなと思います。

(委員)

以前旅館に嫁ぐ前は、熱海市で親子ふれあいサロンというところで職員をしておりました。ちょうど子育て支援事業の立ち上げということで、親子ふれあいサロンの立ち上げのスタッフとして活動していました。その中で活動してきて集まってくるお母さん方からよく出ていたのは、熱海自体が地元の方もいるのですが、遠くからお嫁に来て生活している方もたくさんいらっしゃって、核家族というか、近所に助けてもらえる人もいない、相談もなかなか気軽にできないなかで、親子ふれあいサロンができたことで、お友だちが新しくできたり。やはりそこも集う場であって、同じ子どもを育てているなかで同じ共通の悩み事だとか相談できる場があって、本当によかったという意見をいろいろなお母さんからいただく事が出来ました。そういったなかで熱海市も集う場所は小さくは存在しています。でも、なかなか交通手段や、そこまで来られる時間が無い方もいらっしゃって。そこにそこまでしても集まりたいというような、目玉というか。そういうものがあればもっと利用する人が増えると思います。静岡市でやっている子育て支援の事業の一環の中に、多分民間でやっていると思うのですが、「るくる」という科学館がありまして、そこはすごいです。いろんな科学実験を気軽にできる場所があったり、科学的な遊びを教えてくれる人もいらっしゃいます。夏休みにはそういう自由研究の題材として講習があったり、セミナーみたいなのも子ども向けにやっています。

そういうのと子育て支援と、あと私が思うのは先ほど委員がおっしゃっていたように図書館ですね。小さい子は絵本が大好きです。字が読めなくても、伝わってくるものもあって、そういったものを小さい時から自由に、なかなかお家だと見られなかったりとか、お母さんが読み聞かせがなかなかうまくできないけれども、図書館でそういう本に触れ合っただけで遊べたり、さらにそういったところに集まってくる同世代のお母さん方だったり、それから熱海市は、高齢者というところとちょっと失礼になってしまいますが、年齢層が高いまちなので、そういった人たちも集まってくると自然に会話が生まれるのではないかと思います。そういう自然な若い世代、中堅、ご高齢の方という輪が出来ればいいなと。そういうものが熱海市にできれば、今現在我々30代ですが、どんどん減っているそうで、この資料を見ると。そういった人も熱海出身の人も、結婚して外に出るのではなくて実家に戻ってくるだとか、逆に熱海に来ていいなと思って、そのまま定住してくれるとかそういう風に思わせるような集いの場をできたらいいなと考えております。

(委員)

私はまちづくりということが、今熱海でどういう方向にいくのかというのが伝わってこないところがすごくありまして。皆さんの魅力的なまちを作るということが財産になるのではないかと思います。これだけ接道面もかなり長いですし、まちの中心部でもありますので、熱海の魅力を表に出せるような、そんな施設であれば外からも観光の方がいらしたり、市民の方も立ち寄って頂けたりとメリットが多くあるのではないかと思います。内容としては、やはり皆さん年齢層いろいろな方、これから少子化もどんどん進んでいきますし、お年寄りの方と小さい方が繋がる場所という。それだけではなくて働いている方と普段お家にいる方が出会って交流できる場所になればいいと思います。図書館っていうのも教育の施設だと思いますので、広く教育っていうのを表に出したそういった施設、カルチャースクールではないですけど同じ趣味を持った方が集えるようなそんな場所であればいいと思います。

(委員)

私がここにいる第一義的な立場としては、市民協働推進室長として施設が出来るまでいかに市民が参画して、関わって施設を作るかということと、出来上がった後いかに市民が

関与しやすい建物、ハードとして、機能として市民がいかに関われるのか、そういうものを描いたうえで建物を作る、そういう役割を担っていると思っておりますので一義的にはその立場から参加したいと思えます。また地元の出身ですので、今はなくなって庁舎が建ちましたけど観光会館で小学校の頃ステージに立ちました。成人式も観光会館でした。そういうなかで思い出もあります。20数年前ですけどもこの建物の上にこの3階に図書館があった頃、中央公民館ですね。私が社会教育主事として通算5年間こちらで勤務していました。委員もおっしゃっていましたが、文連の方がこのときでも窓をいかに壁にして絵とか書道、額を飾るのか大変苦労されて、それこそ大工さんに入っていて簡易の展示パネルを作ったり、そういう苦労をいろいろ皆さんなさってきたのも見てきますので、展示のスペースにも思い出があります。また今でも好きで、よく東京はじめいろんな音楽を聴きに行ったりしますけども、そういうなかで関心もありますし、妄想も描きたいと思っています。ただそういう自分の経験だとか感傷的なものが、思い込みにならないようにその辺は注意したいなと思えます。私も市の職員として10年以上このままだけに参与していくこととなりますので、そういうときに管理がお手上げになってしまう、維持しきれないそういうようなものにはしたくないなという気持ちもありますのでその辺ではちょっと冷めた意見も言わせていただけたらなと思っておりますのでよろしくお願い致します。

(委員)

私がこの場所にいさせていただいているのは子育て支援室ということで今の仕事3年目になっています。保育園を建てる仕事をやってきたのですが、常日頃からお母さん方と現場で接する機会も多く、遊び場が少ないという声は常日頃から伺っていて、私は幼稚園に二人子どもがいるのですが、遊びに行くのと大体市外に行くことが多いです。居場所とか集まる場所とか、私がここにいるのはそういうお母さん方からの意見、私個人の意見として、図書館、市民ホール、その他と、相乗効果できれば一番いいのですが、そういった遊び場、集まる場所、子どもとお母さん両方に喜ばれるようなものが盛り込めればなと思っています。よろしくお願い致します。

(委員)

私がここにおりますのは新しい施設に図書館という名前が出ていることからこちらに来させていただいたと思っております。なおかつ普段司書の仕事をしています。単に事務をやっている職員という事ではなくて司書をしているという職能をかわれて、こちらにいると私自身思っております。図書館が今の場所に7年目ですが、今の施設が借り物でそれでお家賃がかかるということで、常々どこか引っ越ししないのかなどでございました。ちょうど今から2年前になりますけれどもこちらの冊子を市民の方も加わったうえで作らせていただきました。約2年前ということは、土地を買い取るというのが出る前の話です。ですからハード面でいうと全く使えない冊子になってはおります。ただソフト面については理想を書いていいと当時言われましたので、図書館の目指すものとか理想についてはこちらでまとめたというふうに私たちは認識していますので、どういう運営がいいですか、どういうものを図書館に求めていったのかについては一応こちらのほうで結論が出ているというふうに思っています。ただもう岡本の土地がこちらに複合施設でというふうに事情が変わっていますので、現実に合わせて変えていかなければならないというのははっきりしておりますので、市の職員としてこういう風になっていったらいいのではないかなというのを申しあげられればいかと思っております。

(副委員長)

私は、町内会長連合会から出てきているわけですけども、町内会というのは泉から網代、初島など81町内会あるわけですね。大体市民の方がほとんどどちらかの町内会に属しているということで、その意見を会長さんたちからいただいて、またこの場で意見を述

べさせたいと思いますが、昨年旧岡本ホテル跡地を取得するというお話があった時に観光団体、経済界、商議所、市文連、町内会等で署名活動をしました。これはみなさん承知だと思いますが、本当に期間が短かったのですが非常に署名が集まりました。そのなかの意見として市民ホール、それから図書館、そういうものをというように、もう一つ先ほど皆さんからお話が出ています、市民の方々が集える場所というような事で皆さんが望んでいると思います。今回この委員に選出されていて、その後資料頂いて、目を通しましたが、非常に現実的にならざるを得ない部分と先ほど市川次長がお話していた夢を語ってくれと。この言葉は非常に重いことだと思います。初めから現実を見ていくと非常に夢のある話ができなくなると思います。だから私は委員長も先ほど妄想という言葉を使っていたのですが、最初は当然皆さまの夢のある言葉を語って頂いて、最終的にはどういう優先順位をつけて、それが持続可能な建物になるのかというような話になるのではないかなと思います。と言いますのも駅前の広場整備の協議会に出ています。最初にその協議会のなかで、今もちょっと失敗したなと思っているのは、最初から予算ありきでした。結局夢を語ってもだめだ、だめだと言われ、全部切られてしまいました。そうなってくると意見を言う場であって闊達なご意見をとっても、予算ありきじゃ闊達な意見は言えないと思います。ですから今回はそういうことではなくて皆さんがご自由な意見をという事で、次長さんにも言われたので非常に心強いと思っています。そここのところを踏まえながら6回程度の話し合いだと思いますが、いい方向で、先ほども言いましたけど持続可能な、後世の子どもたちにあんまり負の財産を残さないなかで最善の方法をとればなというふうに考えています。そんななかで、意見を述べさせたいと思います。

(委員長)

僕は散々喋っていますが、少し外からやって来た人間として。この会は本当に僕しか外者がいなくて、何回も褒めるようですが、よく学識者って半分くらい人間がそう書いてあります。本当に市長もおっしゃったように、委員もおっしゃったように、市民が市民のためにつくる。行政の方も自分の意見をちゃんと持っていらっしゃるというのは、今回会議を進めるにあたって、大変喜ばしいなと思いました。図書館の専門家と言いましても、そんな長くはやっていませんが、新しい図書館づくりに仕事としてやっている人間からみなさんの意見を聞かせていただきますと、大変前向きで、今いろいろな場所で言われているようなことと同じこともたくさんでできましたし、また熱海ならではの観光と、どう交流していくかというのが出てきていて、素晴らしいなと思います。そのなかで私から少し意見じみて申し訳ないですが、図書館というのは内向きに考えるものです。観光の町という位置づけも大きいのですが、ぜひ内向きに、市民の市民による市民のためのものとして内向きに考えていってもらって、内向きに考えることが素晴らしければ、それは観光の人が気づき、外に出ていく、染み出していくというように。図書館にはそういう考えがあると思っています。なので、まず皆さんで、自分たちが楽しいのか、そしてこの会議が終わって、身近にいらっしゃる方がどうしたら楽しくなるのかですね。自分たちの内向きの議論がたくさんであれば、面白い図書館わくわくする図書館、またホールが出てくるのかなと思っています。先ほどは委員から例えがありましたように、自分の中だけに置いておかないで、どんどん言うていくことが素晴らしい議論になるのかなと思っています。

それでは時間もあと1時間くらいしかないので、話を進めてまいりたいと思います。事務局から3つのコンセプトが出ておりました。まず3つのコンセプトですが、どのようなまちにしたいか、この資料が一番わかりやすいと聞いております。このなかに3つのコンセプト出されておりましたが、まずその「豊かな暮らしの創造」と「市民参画」というところに絞って。その前に、どのようなまちづくり、先ほども委員からこのまちはどこの方向へ向かっていくのか分かってほしいというこもありましたけれども、このまちづくりをまずその施設を作る、作らないとちょっとわきに置きながらも、このまちづくりをどう

いう風にしていくかということからですね、皆さんと議論していきたいなと思います。まず口火を切って頂ける方がいたらありがたいのですが。では先ほどまちづくりということがでました委員、もう少しその思いがあれば語って頂ければと思います。

(委員)

割と、雑多な感じに町が出来てしまっていると思いますが、本当はよその都市であれば、こういう雰囲気で行きましようとか、じゃあうちは小江戸みたいな感じでっていうような観光都市ではそういったものがだいたいあるのですが、やはり古い時代に栄えてきたまちですので、順々に世の中が変わってきてしまったものについていけない感じが少しありまして。本当はまちづくり課の方がいらっしゃればどういう感じになるのかなというのをお聞きしたいぐらいで。はっきり分からない感じで、それは活かしつつも現状であれば、どの方向に向いていかなければならないと思うので、民間の中でちょっと大正ロマン的な感じだとか、昭和の雑多な活気がある感じですね。それあたりがちょっと近いのかなというふうになら見ています。

(委員長)

今日も僕もお昼にハンバーガーのお店に入って昭和な感があるなどに思ったのですが、そういうまち並みがあるということで、そのなかで施設をどうしていくのかなというのもあると思うのですが、でも今の少し雑多なっていうのもまたいろいろプロセスがあって経済から見たときにどうでしょうか。プロセスもふまえて、その次に次世代という事まで考えれば。

(委員)

ここの場所はですね、先ほど市長の挨拶にありましたように歴史的にも非常に中心街であった場所でありまして、その関係で市役所があったり消防署があったり、県の庁舎があったり郵便局があったり、いろいろと公共的な施設が集約されているということで市民の皆さまが非常に集まりやすい。スーパーもありますし、買い物等が出来るということで。また周辺に飲食店等もありますので観光客の皆さんも、入りやすいという形のなかで、そういうふうな集約された場所でそれぞれの機能が横につながっていくなかで、連携した形で機能が発揮できればと思っております。図書館を作るにしても市民ホールを作るにしても、そういう心持ちですね。条件を踏まえた形で有効に、何か機能が発揮できればいいのではないかなというのが一つございます。ここはいわゆる経済と政治の中心という形になりますので、そういった形の観点から意見を出させていただければと思います。

(委員長)

ありがとうございます。では逆側の経済またそれを支える教育という部分があると思いますが、先ほど、PTAの会長もされていたり、他の青年部という事もあると思いますが、教育の部門からそういうまちづくりのお話というのは周辺では何か囁かれていないですか。

(委員)

今年の会長さんたちの話にあったと思いますが、いたってシンプルで、観光会館に代わるものが全くないので、当時最大で600人ぐらい入れる。そこでいろんな発表の場があって、親子が集っていろいろな発表ができる場が無きに等しいという事で、これをなんとかして欲しいというのがほぼその意見です。

(委員長)

僕はまだそれを見ていないので分からないので、先ほども委員がおっしゃったようにそういうことが近いですか。

(委員)

委員とお答えと同じでございます。本当に熱海市民全員ですね、展示する場所がない。市文連も市長に再三陳情に上がっております。署名運動もしました。けれどひとつとして。残念な事に流れてしまっています。だから皆さんのなかでは話をしても熱海市の場合は、

文化、文化と口では言っても通じていないという皆さんの意見です。今回このことで是非とも市民の文化向上のために、少しでも良い施設をとということでございます。そして一般市民の方も、それから文化、芸術などに親しんでいる方も全ての方が使いやすいものにしてほしいと思います。お値段もやはり少しでも安くしてくだされば助かります。マリンホールを使いなさいということで使っていますけど、マリンホールというのは地の利が悪いです。熱海からでは。子どもの展示会はそこでやって。例えば表彰式をやっても岡本ホテルのそこだったら、おじいちゃんやおばあちゃんが買い物に来たついでにちょっと見てみようかというふうに、車が無くても来られます。でもマリンホールでは誰かうちのものが連れて行かなきゃ見られない。孫たちのを見たくても見られないという、そういう状況のなかで、近年はずっと私たちやっています。だから今は思い出すと設備は悪かったけど、観光会館の展示室は、あの大きな柱があって、今どきの展示会場はあんな大きな柱はないだろうと他の者が来て言うぐらいのものでしたが、今となりますとあれがあったおかげでよかったなという感じですね。ですからそれに代わるものを極力早く欲しいというのが皆さんの意見です。だからその岡本ホテルの跡地にできるもの、本当に熱海の市民が全部期待に胸を高鳴らして待っています。ですから皆さんのご意見で少しでもいいものを作っていただきたいと思います。

(委員長)

そうなのですね。熱い気持ちがすごく伝わってきます。そういうなかでいろんな方々と今の熱海のもので、今までお子さんとか、囁かれたりとか、周辺とかそういうところでどうですか？熱海全体がそう望んでいるという意見もあるのですが皆さんの周辺の世代層はどうでしょうか？

(委員)

そうですね。やはり、ちょっと話にも出たのですが遊び場が本当にないです。安全に遊べる遊び場というのが。昔は私の子どもの頃もそうなのですが、近所におじいちゃんやおばあちゃん、だいたい人が住んでいて、お外で遊んでいても、見てくれる人、声をかけてくれる人が必ずいたのですが、今はやっぱりこういう時世の問題もあるのですけれども、親なしで子どもを公園に遊ばせると危ないみたいなところがあって、必ず親と一緒に公園に行く。しかも遠くなので車に乗っていくとか、そういう感じですね。ふれあいサロンは本当に小さい子ども対象のスペースで、集う場というと本当にそういった小さい、今あるものを利用できる人しかできないのかなと。

(委員)

やはり同世代並びに私がいろいろ関わっているような会で皆さんに聞くと、やはり少しでも集まってミーティングできるようなスペースがないという事はよく聞かれます。先ほども委員から意見の関係ですとかまた市文化団体の関連の方たちが集う場がないというような話はよく伺うのですが、身近な地域の民生委員の方たちもやはり同じように口をそろえて地区の会合を開くような場所がないということは常々伺っております。

(委員長)

そうなのですね。普通の自治体では公民館の会議室がよく使われている。まあまあ使い勝手が悪いというのはよくでてきますが、なかなかいろんなミーティングの場所というのも大変な事ですね。逆に委員の周りには、図書館はあるわけですが、このまちづくりというなかで図書館だけではなくて、まちを熱海の市というものの意見をお母さんだとか、子どもはここまで喋れるのか分からないですけど、何か感じた事というのはございますか。

(委員)

複合施設に関して以外でよければあるのですが、熱海に住んでいると「熱海はおうち温泉？」とよく言われるのですが、熱海で入れる、引いている家はわずかで、昔からの家しなくなかって市民が温泉入るところがあるかということ、ホテルとか旅館だと昼間だけ高いん

ですよね。別府温泉に行くと湯けむりがもちろんいっぱいですが、町内に入れるお風呂に観光客が100円で入れます。城崎温泉だってそうです。お客さんたちがみんな外のお風呂に入れるようにわざと小さいお風呂作ってあるじゃないですか。そういう工夫が熱海にはないので、市民が温泉に入れるチャンスが全くないです。民間施設はありますけど1,000円もします。300円で入れないですからね。たくさんあるから、源泉かけ流しで入れるお風呂がもっとあってもいいと思います。全然ないです。いくつか市役所のホームページ見るとありますが、それどこあるのくらいの、市民の人は皆さん行ったことありますかというところはないです。熱海に住んでいるなら熱海の温泉の恩恵に全くあずかっていないと思うところがもう一つですね。いろんな方が来ているときに熱海の温泉に気軽に入れる人がいるともっと来た人が喜ぶのにと 생각합니다。市民もそうですが。すみません。複合施設に関係ないですけど。

(委員長)

いや、いいです。そういう意見が出て。

(委員)

熱海はすごい自然が豊かです。海もきれいだし山もいいし、こんな自然の豊かなところ観光客の泊まるだけのところではないし、違う視線で幾らでも見られると思います。私は山も歩くのでウォーキングコースというところもありません。上まで行くと、向こう側に降りるところに全然看板も何もなくて、すごい坂で大変ですが、あんなに景色が良くて海もよくなっていい景色のところなのに、山も悪くてもハイキングとかそういうところがほとんどないというのが。すみません、関係ないですが。でもそういうところに市民が、熱海ってこんないいところだよっていう、来たらこういう温泉があって、ああいうところがあって、山も歩けるし。山を歩く方たくさんいるじゃないですか。どこの駅に行っても。そんなに本格的な山じゃなくてもあるじゃないですかね。熱海にはそういうのもないし、温泉も入れないし、誇れるところがないなっていうのを思ったりします。そういう面から言っても今度の誇れるものができる複合施設になるといいなと。すみません、違う話になって。

場所から言うと私は多賀に住んでいますが、先ほどのマリンホール。私たちはマリンホールが近いので全然いいのですが、反対に熱海市の中でここに複合施設が出来ると、当然多賀とか伊豆山とかもちろん遠いところの方もいらっしゃるわけで、なかなかたくさん作るということは今は言えないですが、今はそんなことはなかなか言えないと思って。今は黙っていますが、図書館ももちろん一つだけみんなの意見が詰まった良い図書館が出来ればそれ以上のことは今は考えていきませんが、ただブックバスというものを持っていて、今それであちこち周らせてもらっているので図書館の役割は全くなくはないかなと思います。ブックバスは是非図書館の仕事のなかで続けていくように。新しい図書館になっても。でもブックバスはすごく高いそうで、車両代がいろんな経費も掛かりますがそういう面でいうと多賀のほうにブックバス回っていきますので大事だなと思っています。

(委員長)

ありがとうございます。温泉、あるいは皆さんの総合的理解で自慢と申しますか、誇れるものっていうのが各所に出てくるのかなと。僕なんかは外から見ると熱海は熱海ってこうというイメージはあるのですが、地元の人がそんなに誇れるものが・・・ってことになるのであれば、そこが一つのまちづくりのキーになるのかなと。それをまた探していくってことが一つの複合施設になるのかなと思います。山形は新しい新幹線に足湯を入れるそうです。山形は温泉がすごいですから、温泉を観光新幹線みたいなものを作るというふうに、新聞に載っていました。そういう奇をてらうのも必要かなと思いつつも、何がこのまちにあったらいいのかなというの。今それでブックバスのことが出ましたけども、その辺委員どうですか？

(委員)

ブックバスは、車両代が高いということと、必ず職員が二人乗らなければならないということで、人手でもかかります。経費としては大変掛かります。効率的にという話になると真っ先に無くそうという話が出てきてしまいそうな事業なのですが、特に熱海は地域が広いのに図書館は一つしかないということから、図書館に足を運べない人というのがたくさんおられるわけですね。南熱海の方ですとか、湯河原に近い方ですとか。そういう方にとってブックバスが来てくれるというのは非常に楽しみなのではないかというふうに思われます。特にこれからは高齢の方が増えてくると、ますます外に出られない、あるいは出ても本当に近所のごくごく歩けるところにしか行かれないという方が大変増えていると思いますので、役割としてはあると思います。ですので、みんなのため、子どもからお年寄り、みんなでという事であれば、図書館の機能のなかでもそのブックバスですね、残していくと良いのではないかなというふうに職員としても思います。効率だけで測ってしまうと違うのではないかなと私は思っております。また委員にも援護していただきましたけど本当にそう思ってる市民の方も多いのではないでしょうか。行ったことない人は全く行ったことないですね。だから分かりづらいのですがそのバスに乗ったり、バスがいくステーションに顔を出すと、大変賑わっているというのが大変よく分かっていただけるのではないかと思います。効率だけで測らないでいただきたいなというところですね。以上です。

(委員長)

ありがとうございます。本当にそうですね。僕もブックバス推進派ではあるので。僕たちが勉強しているなかでは、今大きなものだとして2千万~3千万円してしまうので、バスを買って、そこで人件費払っていくなら、どこの自治体の図書館も大変だなと思います。やはり被災地から学ぶものもありまして、被災地でブックバスが全部流されてしまって、ほとんどのブックバスが流された。そのなかで立ち上がったのは軽トラです。軽トラに簡易なホームセンターに買うような簡易な棚をいくつか載せてそこに椅子も載せれば、れっきとしたブックバスのようなものが出来あがっていくということで、大活躍をした時期があります。そこから学ぶものがあるのもいいと思います。やはりないものねだりして、コストをどんどんかけていくよりは、できることから、まずは。その図書館でいえば、本に触れさせてそこが楽しくなれば、今後できるホールと合築すると、図書館に行ってみようか、になるプロセスを作りあげていくっていうのも一つの手かなというふうに思います。これがなきゃダメだ、ではなくて似たようなものから始めて、何かその子どもたちに大人が交じりあえるような空間、今おっしゃっていたステーションとか、そういうふうになっていくお手伝いしなければいけないですね。ボランティアさんとか何々地区のどこどこがいて行くのであれば、そこにお世話係がいるとすれば、それも市民の協働によるまちづくりの中に入っていくのではないかと思います。もうすぐ時間も無くなっていますけどもそのなかでその前に副委員長はどう思いますか？

(副委員長)

私も皆さんと話を聞いていて、大体意見はそんな変わらないと思います。先ほども言いましたが、市民の方々が一番望んでいるようなことは、それは昔の市民ホール、昔の観光会館最高600人規模です。この会館があったときに非常にその利用価値は多かったと思います。それで南から泉の地区までかなり範囲は広いのですが、こういうのが集えるところは観光会館だけだったんですね。今のマリンホールというのは、スポーツが主体ですから、どうしてもホールという機能が若干あっても、非常にそれを目的に作ったものではない私は思います。観光会館を撤去するときに、そちらのほうを使ってくださいという事でしたがなかなか利用勝手は悪いし、それと先ほどもいいましたように、利用の目的が違うということで市民の方々が望んでいるものというのはこのアンケートのほうも見て分か

るように、観光会館と同程度のものがほしいというのが非常に多いと思います。そういうものができれば、市民の方々が利用する、いろいろなもの多岐なものにわたっての利用が出来るかなと思います。ただせっかく今回新しいところに作りますので、果たしてホールだけでいいのかっていう問題ですね。私が思っているのは、何か熱海らしさを情報発信できるもの。そういう場所も出来ればなと思います。まあ具体的なものはなかなかちょっと分からないですけども、情報というのは先ほども言いました、熱海というと、温泉地というイメージが有りますから、じゃあ温泉の何かその情報を発信できるようなもの。それとこれは一つの案ですが、熱海だと花火をよくやりますよね。昔熱海駅のところに花火に行ったときに一尺玉を展示したりとか、そういうことで観光客の人たちがただ花火というものではなくて、この夜空をきれいにするだけのものじゃなくて、こういうものだよと展示しているとより一層分かったり。例えばこがし祭り。観光祭も熱海の大イベント行事だと思います。これはなかなか情報を外に発信できない状況だと思います。こういうものもそのところに何かを工夫を凝らして展示をすることによって、観光客の人たちがこの地域って先ほども言いましたけど、昔御用邸があったようなところで熱海が一番の中心地です。その中で観光客も熱海を散歩する、歩いているときに寄れるような、何かそこからまた人口が増になるようなものが出来てくれれば一番いいかなというふうに思います。なかなか具体的なものは浮かばないですがそんなことを思いました。

(委員長)

副委員長から話を伺ったなかで、次の市民参画とか企画運営とか、あらゆるものに今ご意見いただいたと思いますが、今一時間くらいしのなかで、まちづくりと言いながらも、ネガティブになりつつあるこの場があると思うので、少し今の展示の話とか、これまでやってきたことでもいいと思いますが、ここが面白かったとかそういうことですね。熱海のここが素晴らしいということを少し議論していきたいなど。そのなかで企画力とかですね、市民がどうやったら参画していただけるのか、浮かび上がってくればいいと思います。資料にもありますが、1年を通して市民が集う場所ってなんだろう、ということが書かれていますけども、今花火というものがありましたけれど、他には何かこうこれは私たちに欠かせないというのは何かありますか。

(委員)

熱海は坂のまちで、よく尾道が坂といいますけど長崎とか。でも熱海の坂もすごいと思うので、坂を目玉にも出来るのかなと。

(委員長)

熱海も坂道にも名前がついていますね。長崎もそうですけど外国もそうですよね。道にも名前がついていて、ブラジルなんかいくと死んだ方の名前を付けていいというルールがあって栄誉を称えるために道に名前をつけられるとか、そういうこともあります。別に生きている人でもいいのですが。そういうのも一つの情報だなと思っていて。今、図書館、委員は関係ないとおっしゃっても、すべて情報ですから、ここに一つの情報を出し合うことによって、今度は外の話をする、その情報が面白ければ、それを図書館で情報として収集しなきゃいけないなと結びつくと思います。そういう意見もどんどん出していただければなと思います。ほかにどうでしょうか。

(委員)

私は熱海8年で…誇れるものというのだとちょっと思いつかなくてごめんなさい。

(委員)

私は熱海に68年間生まれ育っております。息子が42歳ですが、息子が小学生のころは姫の沢も町内の子ども会で結構活用しました。キャンプをしたりクリスマスのときに泊まって、町内の子どもたちが他県のですね、関係を見たり。クリスマス会も学校の体育館を使ったりしました。そのころはお母さまたちが自由な時間がありました。今と違って。

それで熱意も。子どもに対しての熱意もありました。子どもをよくしよう、近所の人たちと仲良くしよう。姫の沢も最初の頃は、みんなよく利用しました。なんとなく遊びに行くというわけではなくて、あそこのバーベキューも、泊まりもできましたし。そういうのにずいぶん活用しました。それがだんだん見えていますと、今学校で泊まりに行くぐらいですね。一泊のところもあれば桃山小のように3泊するだとか。そういう面でだんだん違ってきています。私たちの息子を育てているときは、だんだんお母さまたちの意識が昔と今とでは考えが全く違いますね。子育てに対しての気持ち。そういうことを考えますとね、せっかくあんなにいい姫の沢というものがあります。それで姫の沢で時々しめ縄作りとかやっています。でも、あそこまで行く足が大変だっという方も結構います。ですから、身近にこういうホールが出来たときに、お年寄りに子どもたちに一生懸命教えていただいたり。山まで行かなくても、姫の沢ってところまでいかななくても、まちでも出来るという可能性も出てきたわけですね。できたらそういう形でも使えるっていうのが。姫の沢は姫の沢で別の活用方法を考えればいいと思います。ですから先ほどどなたかが高齢の方と子どもたちの交流って、そういうこともまた地の利が悪いと行きにくいってこともあります。この場所でしたら子どもたちが自分の力で行く事が出来ます。ある程度小さくなければ。そういうことにもこういう活用が出来ればいいと思います。そうすれば高齢の方と子どもたちの交流というものが出てきますし、各町内で声をかけて、そういうのが好きな人もいるでしょうから。参加したいお子さんもいるでしょうから。そういうことにも活用出来たらいいかと思います。

(委員長)

今子どもたちがどこで何をしているのかっていうのを。

(委員)

そうですね…私の子どもは小学校2年生と年長さんと2歳児のクラスでね。上の子は学童という形で学校が終わった後に学校の中で先生に見てもらっています。私も働いているので、下の子たちも保育園に行っていて、そういったなかでいるか、親が連れてって公園で遊ばせるか。本当に熱海は自然が豊かなので、私もよく連れて行くのですけれども、熱海のサンビーチで磯遊びをさせたり、車を運転するので、姫の沢にもよく行きます。春や秋はとてもいい時期なので、そこでアスレチックさせたり葉っぱ拾いだとか、秋は木の実やどんぐりを拾ったりとか、そういうことはしています。

それからこの場を借りて熱海ならではというところでお祭りですね。さっき委員もおっしゃっていたように。熱海の子どもたちはお祭りが大好きです。すごく大好きで、もうじき始まりますが7月1日辺りから各町内で太鼓の練習が始まります。おなかの中にいるときから太鼓の刻みの音を聞いているのではないですかね。7月1日からお祭りの始まる前日まで、毎晩子ども会でみんな協力しあって太鼓の練習をします。それこそ熱海の文化というか、夏の祭りなので厄払いという事で、すごく盛大にやりますが、一番活気がでていう事を全国にアピールできるものではないと思います。山車コンクールもあります。各町内の人たちが試行錯誤されて、いろんな山車を作ったり。お神輿の会もいくつか存在してしまっていて立派なお神輿もあります。お祭りのときだけしか出さないの、いつも倉庫にずっと閉まってありますが、そういうお神輿を飾る場所があってもいいのではないかと思います。なかなか皆さんお神輿を見るってことないと思います。神社にはよく宮神輿というのがあって神社の中にあるかもしれないですが、せっかくすごくきれいな装飾されています。木彫りとか金箔貼ってあったり。日本の伝統芸能を展示する場所があってもいいと思いました。

(委員)

関連して、清水町にマンションがありまして、旧青木館ですね、そこに清水町の山車が飾ってあるのですが、すごくきれいです。花火の行きかえりの人がふと足を止めて覗き込

んでしまうみたいに。やはりそういう文化的なもの、我々が大切に育ててきたお祭りというもの。普段山車やお神輿というものは町内の神酒所に納めてあって、年に一度だけ、そういう日だけ出るのではなかなか見る機会がないと思うので、そういうのは魅力的なものを発信していく一つのものだと思います。

あと、熱海ならではのものを考えていたのですが、1月に梅が咲いてそこから熱海桜、河津桜、大島桜、しだれやソメイヨシノと八重桜ですね。ずっと5月くらいまで花が咲き始めますね、ああいったものは熱海の宝ではないかなと思います。

(委員)

あとジャカランタ。

(委員)

ジャカランタ、そうですね。

(委員)

相当昔になります、海岸のほうに、大きな箱みたいなのを建てて木彫りの山車をたくさん置いて飾ったらどうかという意見がありました。ところがそれも断ち切りになってしまいました。そういう意見も昔ございました。せっかく素晴らしい木彫りの山車が熱海市内にはたくさんありますので、それを展示して観光客に見せたらどうかという議論は本当にありました。それで今はそうやって清水町みたいに各々個々で飾っているところもあって、もったいないなと私いつも思いますが、そういう意見はありました。それから子どもたちの、先ほどの太鼓の練習も、本当に熱海は1日になると始まって、もうお祭りの前日まで子どもたちは勉強することも忘れて、もう夕ご飯を食べるのも忘れて行くという状況だったのですが、それも近年変わりつつあります。昔よりも短い時間じゃなきゃダメだとか、二部制だとかいろいろそういう形で。それから1日からずっと始めていたのが、1日からやらないところもあって。少子化で。昔みたいに1日になったら熱海市中の子どもたちが太鼓の練習をするというのは、だんだん違ってきています。私の教室も各地域の子が来ていますので話を聞きますと、少子化の波がそういうところまで。山車も出さないというところも出てきています。それで子どもたちはよその町内についたり、あきらめて出ないっていうそういう状況にだんだんなってきています。だから昔とは方向がだんだん違ってきているってことも一つあると思います。ただできるところは頑張っていて、他の土地から見にくることもだんだん増えています。もっともっとお祭りを全国配信して、もうちょっとお客さんが集められるのではないかといつも思います。そういう山車をせめてホールのところ。今度出来るホールには一基でも二基でも展示して見せていけたら素晴らしいのではないかと思います。

(委員長)

はい。ありがとうございます。太鼓なんですね、ちょっとびっくりしました。僕らの住んでいる長野県も太鼓は結構、木島平というところがあって、そこでも太鼓がやっぱ有名で、そこはホールを今建てようとしたときに基準値、太鼓が出てきています。太鼓をそこで鳴らせるか鳴らせないのかっていうのが。太鼓の音がどうかという感じでやっぱ地域の文化というのが、いくら新しい複合施設ができようが、根底にそういうものをきちんと含まれていくというのは必要なのかなというふうに今思いました。

今「豊かな暮らしの創造」と「市民参画」というところで多岐に議論してもらっていますが、全体を通して、またいろいろな話を聞かれました、今日はディスカッションのような形でいいと思うのですが、次の機会は公民連携はどうなのかと、また僕からは、口頭でいろいろお話させてもらってますけども、あらゆる事例を見たり聞いたりしてきておりますので、少し僕の方からも図書館に特化しますけども、こういう図書館が喜ばれているかどうかはともかくして、いろいろな行政さんとか市民活動の皆さんが考えられて、今までにない図書館、僕たちの言葉で言えば、既成概念を取っ払ってしまって、新しい創造をし

ているという事例を少し皆さまにお示しできればなと思います。

総合的にたくさんいろいろなことが出てきて、その中で観光の話ですとか、やはり場というものです、集う場という事になってはいますが、先ほどアンケート、観光会館のことですか、アンケートでたくさん出てきたと思いますが、僕が見させてもらうなかで目立つのはカフェとか集う。カフェとして集う場所というのもアンケート調査ではたくさん出てきたと思います。カフェがあつていい悪いっていう議論よりも、カフェというものが結構僕は町を歩いていてあるのではないかなと思ったときに、こういうアンケート調査で図書館なりホールなり本来のところに欲しいという意見に対してみなさんはどう思われるのかなという事を知りたいのですがどうですか？

(委員)

当然ながら施設に併合するような形でフロアに入っているのは一つの形だと思いますが、無理にそれを構えなくても、まちが育てば必然的にそこに集まってくるものじゃないかなと思います。

(委員)

委員がおっしゃっていたのと同感ですが、熱海市内、先ほどもありましたが、昭和レトロの町だと私は思っています。私自身もお客さん向けに熱海を散歩してもらいたいなということで、若おかみおすすめのお店マップというのを作ってお客様にお配りしているのですが、いろんなところに昭和くさいような純喫茶みたいなところとか、逆に本当に新しいオシャレなカフェだとかがあちこちにあります。海が見えるような喫茶店や路地に入っていくとちょっと照明が暗いようなカフェもあつてお客さんたちは、そういうものをすごく喜びます。若い子たちがよく言っています。ですから確かに図書館に本を借りたあとにカフェがあつて飲みながら読むっていうそういう雰囲気とても良いのですが、そんなにそこに注目しないでもいいのかなと思っています。

(委員長)

どうですかね他のみなさん。今の意見というお話もあります。かといって辛口にコメントすればアンケートの中でこんなにカフェが出てきているとなると、観光の人はそういうカフェ、レトロカフェに行きたがっているのかなと思います。

(委員)

私の個人的な妄想だと図書館って、熱海ってこうぎゅっと詰まった町という感じがするので、空間的に抜けているところがほしいなという気持ちがあつて、ちょっとポケットマークのような広場的なものを確保しつつ、その脇にカフェというか、休める場所があつていい。妄想では来上がっているのですが。土木事務所方面に関しては緑の大きな木も多いですし、それとつながったような感じで木が植えられているような。建物がダイレクトにあるのですごく人は圧迫感があると思うので、特に雑多なまちというのは緑をうまく使っていないと調和が取れなくなってしまうので、そこに気を使っていければいいなと思います。

(委員長)

おもしろいですね。設計目線というか。他にどうですか？

(委員)

昔ですね、レトロの街を目指したいなという意見もありました。でも熱海の町は継ぎ足しみたいな感じで作ったホテルや旅館だとか、また街並みとかアーケードなんかも、継ぎ足しでその時代の流れで作ってきたので雑多バラバラです。それを一律にレトロのまちを目指すとすると大変だということもございますから。熱海の町は街路樹が少ないという意見もございますから、街路樹は植えようと思えば植えられます。専門家の方とか他の方が熱海に来て、「街路樹が少ないね」という意見がずいぶん前ですが伺ったことがあります。ですから是非今回に作るにあたって周りに緑を植えるような感じにすると、憩い、子ども

たちが集まったり。花広場ではなくて、ちょっとした街路樹を作ったらいかがかなと思います。そこには桜を植えたり梅も植えておけば、そこでちょっと四季を眺めるという事もできますね。そのことがいいのではないかと思います。

(委員)

委員がおっしゃっていた、この場所の接道域が非常に広いということで、ここをやはり緑を上手にを使ってコンクリート、またコンクリートの建物という形ではなくて、どういう形で緑とか花だとかを演出できるかということが重要になってくると思います。私は熱海の特徴として坂の町、斜面都市であるということで、それが非常に優位になっています。まっ平らなところに建物が建っていても何にも味がないですね。斜面に建っていますとこれが景観として都市計画が生まれてくるという事だと思います。それから夜景がやはり非常に美しいと。光の量が減りましたがやはり夜景都市があるというようなことが言えると思います。自然景観、都市景観が非常に優れているといつも感じております。以前、ヘリコプターに乗れることがありまして、ちょうど伊豆半島をぐるっと周りまして。大井川の河口の方から乗りまして田子の浦、三保の松原、戸田と。海岸線と伊豆半島があったのですが、最後に熱海の上空に来ると熱海は別格にきれいです。自然も緑もきれいですし、建物の調和、それが非常にきれいだということで、わが町熱海が一番優れているんじゃないかなと自信を持ったり、もっともっと磨きをかけていかなければならないのかなと思いました。そんな特徴のあるまちですので、今回中心的な位置にありますのでやっぱり熱海市民が憩える、心がやすらぐ、そういう場所になればいいなと思っています。

(委員長)

ありがとうございます。時間もきてしましまして今日はまとめるという事はあんまりしませんけども、みなさんから本当に奥が深いところ、委員がおっしゃったようなところがでてきているのかなと。また初顔合わせですし様子を見ながらというところもあるかもしれないですけど、皆さんのなかで共有できるもの、会議だけでなく、僕も出来るだけたくさん来ようと思っているので。昨日も前日から入ってまして、うろうろしていたのですが、そういうところでも、意見交換が出来れば。会議だけではなくてですね、何かお話してもらえれば嬉しいなと思います。最後に副委員長はどうでしょうか。

(副委員長)

最後と言われるほどではないですが、カフェの話が出たのですが、アンケートの中のカフェというものを読んだときに、一番先に思ったのは、武雄市の民間でやっている、まあ委員長さんが次回のときおっしゃると思いますが、そのあたりをイメージして言っているのかなと思いました。結局、武雄市の図書館をツタヤさんがやって、それとカフェをやってすごい成功しているという一例がある。テレビでやっているなかで目にする機会が、2度ほど見えています。そういうのを見た人がこれを言っている可能性も高いのかなと思いました。

それと先ほどから言っている文化の発信という事で、具体的なことですが、熱海は四季が非常にはっきりしていてきれいなところですよ。先ほど1月から梅の話を委員がしていただきました通り、その中で夏になればまちにお祭りに花火があり、花火も夏と冬と趣が全然違います。今の時期ちょうど日曜日に終わりましたが、ほたるの夕べというのも梅園でやっています。そういうものが市民の人たちも知らないことが多いです。そのところを考えると市民が集える場所ということで、どこかちょっと行ったところは忘れてしまいましたが、熱海の四季をオーロラビジョンか何かでそれに関連したものを展示する。先ほど言った山車であるとか、花火の一尺玉とか、花とかそういうものを展示して、そういったところから発信していくことで、市民の人たちも参画していくというようなこともひとつかなと感じました。

(委員長)

ありがとうございました。武雄市が皆さん気になるところ。アンケート調査でも一番多かったのはカフェというふうに聞いていますし、それに対し民間がやっているのので鋭くきっていったなと思います。僕が幾つか関わっていったところ、カフェと図書館というのは結構できます。熱海市でもでてきて自然かなとは思っていたので、その辺も含めて来月公民連携というのも、その中で武雄市の話も出てくると思いますので行いたいなと思います。それでは事務局の方から次の回の連絡をお願いします。

(6) 次回開催予定について

《7月24日（木）午後2時～ 市役所第1庁舎4階第1会議室にて開催》

(7) 閉会

以上。